NUPRI NEWS
Nagano Urban Policy Research Institute
NPO法人 長野都市経営研究所
NPO法人 長野都市経営研究所
Vol.34
2010.FEB.
発行日／2010年2月28日（年4回）
発行／NPO法人 長野都市経営研究所　〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1 丸本ビル2F　TEL 026-235-7911　FAX 026-235-6166　http://www.nupri.or.jp　E-mail：nupri@nupri.or.jp

2010（平成22年）の年頭に当たって

NPO法人 長野都市経営研究所
理事長　市川浩一郎

平成22年の新春を迎え、先ずをもって皆様方のご健勝とご繁栄をお慶び申し上げます。

日頃より会員の皆様にはＮＵＰＲＩの諸活動に格別なるご支援とご厚情を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、昨年にあっては日本全体として、その政治情勢は政権交代下の余波に攫われ、更に経済情勢はデフレへと沈下してゆくという二重苦を余儀なくされ、正に百年に一度と言われる厳しい現実を目の当たりに見る思いの一年であったと思います。

こうした中でＮＵＰＲＩは、主体の３つの研究部会（スポーツによる街づくり・新産業創出・Ｓｔｒａｔｅｇｙ２０１４）と「わいがやサロン」及び、２つの特別委員会（中心市街地活性化・ＴＭＯ）における諸活動はもとより、５月には善光寺御開帳での更なる賑わいの創出（ＮＵＰＲＩ寄席の開催）を実現、大勢の市民へ楽しい笑いの場を提供することができました。また、10月の市長選挙に際しましては、市民党を標榜する現市長のマニフェストの下に一致団結し、いたずらに政党色を前面に市政へ横やりを入れてくる風潮を打破し、所期の目的を遂げることができました。この間、会員の皆様から寄せられましたご厚志・ご尽力に対しまして改めて感謝申し上げる次第であります。

さて、依然として、世の中全般に明るい兆しが見えないところではありますが、今後もＮＵＰＲＩはその設立理念に沿い、地元「長野」の発展に寄与すべく引続き独自の目線をもって、「長野の街づくり」のための提言・提案を継続実行してゆく所存であります。新年に当たり会員の皆様の一層のご参加・ご協力をお願いしまして、年頭のご挨拶と致します。

NUPRI
新春特別座談会

2010年を迎えて

―将来に向けて、長野市とNUPRIの取り組みを考える―

民主党政権の誕生、裁判員制度のスタート、長引くデフレ経済、アメリカ初の黒人大統領・オバマ氏の就任など、記憶に残るニュースに事欠かなかった2009年。時代変化の荒波にもまれながら始まった2010年も、早1ヶ月が過ぎました。昨秋の市長選により鷲澤市長の舵取り続投が決まった長野市も、また発足から16年が経過した当NUPRIも、今年は改めて大きな正念場の年となりそうです。

そこで、NUPRI前理事長でもある鷲澤正一長野市長と星沢副理事長との対談を実施し、長野市とNUPRIの今後の取り組みや相互の関係などについて、忌憚のない意見をぶつけ合いました。

長野市のこれからを考える

岩野事務局長（司会：以下岩野）　まずは新年のご挨拶と併せ、昨年10月、鷲澤市長が3選を果たされましたことを心からお慶び申し上げます。前理事長である鷲澤市長の当選はNUPRIとして非常に喜ばしいことです。新年の行事等でなにかとご多忙のところ、本座談会開催の申し出を快くお引き受けいただき、本日の開催が実現いたしました。では始めてまいりたいと思います。

星沢副理事長（以下星沢）　鷲澤市長におかれましては、3期目の新年であると同時に、1月1日の旧信州新町、旧中条村の合併により、新長野市として迎える正月。気持ちも新たに市政の舵取りに臨まれていることと思います。本日は、市長がこの先4年、何を焦点に市政に取り組まれていくかを伺い、私たちNUPRIの活動の指針として生かしていきたいと考えております。

あいかわらず景気の見通しが立ちづらく、新年早々暗いニュースばかりが目につく昨今ではありますが、この対談が、明るく夢のある展望を得る契機となることを期待しています。

鷲澤市長（以下鷲澤）　日頃からNUPRIには大変お世話になり、この場を借りて会員の皆さんに厚く御礼を申し上げる次第です。こうした席で市政について語る場合、とかく理念が中心となりがちで具体論になりにくいものですが、どうもそれでは発展性がありませんから、できるだけ具体的にお話しすることを心がけたいと考えています。

私が進める市政の根幹は「みんなの声が『ながの』をつくる」という点にあります。「声」を具体的なカタチとして施策に反映させていくということですが、そのために、できるだけ多く公聴の機会を持つ必要を感じています。主とするテーマは3つ。ひとつは中山間地域をどうするかということです。次は公共交通をどうするか。そして環境問題ですね。

星沢　選挙の際も、この3つを主張の核にしておられましたね。改めて具体的にお聞かせください。

鷲澤　まず中山間地域ですが、基本的に人が住んでいない、あるいは人口の減少が進んでいる地域です。しかし現実的に長野市の4分の3の面積を占めている。放っておくわけにはいきません。ひとつの例を挙げましょう。たとえば橋の向こうに5家族だけが暮らしている。その橋が落ちてしまった。再建には5億円かかる。たった5家族のために橋を再建するか、あるいは5家族に5億円をお渡して橋のこちらに移住していただくかという議論になります。これを中山間地域の問題に置き換えるならば、私はこの5家族にそのままそこに暮らしてもらい、橋を架け直す道を選ぶべきだと考えるのです。なぜなら、人が住まなくなるとその地が荒廃するからです。国土を健全に維持していくためには、そこに人が生活することが大事です。地域性を生かした新たな産業を創出し、人が暮らし続けていける中山間地域を創っていくことができないだろうかということで、多くの皆さんのアイディアをいただきたいのです。

次に公共交通、主としてバス交通と長野電鉄屋代線をなんとしても維持存続させていく道を探らなくてはなりません。環境負荷を減らすという観点からも、また子ども、高齢者、障がいのある人たちにとってより住みよい地域にするためにも、公共交通の利便性を高めていく必要は大きいと考えています。現在、川中島バスと長電バスの市内路線バスの

鷲澤市長

売上は合わせて年間17億円ほどとお聞きしている。市民が分担してこの費用を捻出し、バスの利用料を無料にするという施策もあり得るわけです。乗り合いタクシー、相乗り通勤などの施策も一部では始まっています。しかし、どんな施策にも異論はあるでしょうから、やはり多くの「声」を聞かなくてはいけません。そこで現在、協議会を立ち上げ、国の補助金を生かして現状や市民の声を把握し、具体的な施策に反映させるための調査・協議を展開しています。

3つめの環境問題ですが、これからはあらゆる施策において「環境の屋根」をかけて進めなくてはいけないと考えます。まず、化石燃料の消費を減らし、CO_2の排出量削減を進める必要があるわけですが、そのためにひとつの鍵となるのが太陽光発電でしょう。風力発電も注目されていますが、調査の結果、長野という地域には地形的にも気候的にも向かないということなので、今後は太陽光の活用に関し、より効果的な施策を検討していきます。

以上が、これから4年間の市政の根幹です。

星沢 ありがとうございました。NUPRIとしてどのような協力ができるか、私どもも協議を重ね、行動していきたいと考えます。

新政権下における長野市の未来は？

星沢 ところで、昨年の最も大きな出来事は、流行語大賞にも選ばれた「政権交代」だったと思います。民主党政権となったことは地方行政にとってどうなのでしょうか。よかったと思うこと、課題に思うことを、市長の立場からお聞かせいただけますか。

鷲澤 今、現在の率直な感想としては、地方交付税が多少なりとも増えるという点で、長野市の財政面からみると、よかったといえるのではないでしょうか。実際、小泉政権時代の改革によって、地方財政は非常に厳しい状況を強いられていました。鳩山政権に変わり、それが少し緩んだという意味では、確かに「地方主権」の方向が見えていると感じます。

しかしその一方で、再開発やダム建設などの地方整備の事業につく予算の見通しが立っていません。やっかいな事業は先送りされているという印象を否めないのではないでしょうか。また、過疎債の期限が延びたのは財政的にありがたいものの、使い勝手が現実に即していない点に不満を感じます。

一個人として感想を述べるならば、正直言って非常に心配ですね。特に経済面での〝バラマキ施策〟に対し、こんなことで日本の経済がもつのだろうかとの懸念は小さくありません。今後、消費税も上げないわけにはいかなくなるでしょうね。

星沢 確かに、日本経済がもつのかどうかへの不安は、鳩山政権への不安と重なっているというのが実感ですね。それが昨今、いろいろな側面で表面化しているように思えます。

鷲澤 とはいえ、日本経済を客観的に考えるならば、国民も一方的に消費税を税金と厭うのではなく、物価変動と考えて受け入れるようにしていく必要があるのではないかと思いますね。国の借金をまず減らすことが重要であることを、国民も理解しないと。

星沢 なるほど、確かにその観点は必要ですね。

星沢副理事長

長野市のシティ・セールスとNUPRI

星沢 さて、地域を持続的に発展させていくには、地域の魅力を外へ向かって効果的に訴求していく必要があると考えます。そのために人材、物財、資金、情報などの資源を地域内部で活用可能にし、地域を活性化させていく施策も求められるのではないかと思います。NUPRIではスポーツ、2014年新幹線延伸、そして新産業創出といった観点を軸に、鷲澤市長の2期目のテーマであった「元気な長野市」創造に貢献する施策を進めてきました。今後への指針として、市長が展開しようとしておられる「シティ・セールス」をずばりお聞かせください。

鷲澤 新幹線で東京から90分でアクセスできるという環境は、長野市にとっていい面も悪い面もあります。2014年には、さらに1時間で金沢とのアクセスが可能になりますが、これは観光においてもビジネスにおいても多大な影響を及ぼすはずです。特にビジネスの面でこの十数年を見直してみると、東京からのアクセスが便利になったために、長野は首都圏の出先エリアになってしまった感は否めません。東京からの目線が、ビジネスのものさしになっています。今後、北陸もそうなる可能性が高いだけに、なんとしてもJR長野支社を存続させていただき、東京目線ではなく、長野から北陸をにらむ視点を保持し続けていただきたいと考えています。多くの企業、事業所が長野市に支社を置く必要性を意識するような場所であり続けなければなりません。観光面だけがクローズアップされがちですが、長野を単なる通過駅にしないためには、この視点が重要と考えます。

もうひとつ、新聞社、テレビ局などマスコミの支社、支局に赴任していた記者の皆さんが、従来のように「長野市は住みやすい」「長野市はいいところ」という感想を持っていただけるような長野市でな

くてはいけないと考えます。そのためには、彼らが納得できるような文化施設や飲食店が充実しており、市民にもおもてなしの心が浸透していくことが、今まで以上に重要になるでしょう。

星沢　活気という点から見ると、若い人、特に学生があふれるまちには、独特のにぎわいがあると感じます。学生がいることの経済効果も小さくありません。そういう意味でも4年制大学の創設が望まれると思いますが。

鷲澤　その通りですね。現在、長野市に住んでいる短大以上の学生は5千人ほどです。片や金沢は2万人、熊本はもっと多いといわれます。どう考えても長野市は少なすぎますね。経済面で考えても、東京で大学の4年間を過ごすと1人1千万円以上かかるといわれますが、長野で生まれ育った人が東京で大学時代を送るというのは、長野市にとってそれだけの経済損失なのだという見方もできるわけです。若い人が長野に残る、あるいは外から長野へ呼び込めるような魅力的な4年制大学が、長野の未来には絶対に必要だと考えています。

　具体的には、経済系、法律系の大学を、と考えてきたのですが、今年1月26日付けの新聞に、国が今まで認可してこなかった医学部の新設を認める方向を打ち出したと報道されたのを受け、今、緊急に情報収集を依頼したところです。県とも情報を交換し合いながら、なんとしても魅力的な4大の創設を進めていきたいですね。

岩野　ポストオリンピックの市街地活性化を大きな使命として発足したNUPRIも16年目を迎えました。当初のような明確な目的がなくなった今、NUPRIの存在そのものをどうしていくかをも含め、真剣な議論の必要を感じているところです。16年の経験と実績を生かし、まちづくりにもっと寄与していくために、市長により近い存在の団体としてNUPRIが市の懇談会などに参加できないものでしょうか。

岩野事務局長

鷲澤　現在、長野市には100を超える審議会、懇話会が存在し、それぞれに専門家を配して活動を展開しています。しかし、それぞれが有機的なつながりを持っているとはいいにくい。そこでぜひ、「NUPRIはこう考え、こういう施策を持っている。それには、こういう人、こういう組織と連携を図りたい」という提案を、逆にしていただきたいですね。加えて、もっと大局を見て、戦略的に長野市の理想的な将来像を描き、実現への行動につなげていける会を設ける必要性も切実に感じています。10年先というロングスパンではなく、時代の激しい変化に対応できるような、柔軟でいて、行動力のある組織ですね。それには、従来の思考や枠にとらわれない新しい人をどんどん引っ張り出し、議論してもらいたいと考えているのです。

岩野　あらかじめゴールを定めるのではなく、自由に発言し、議論しながら、本当に理想とする長野像を求めていくというのはいいですね。

鷲澤　その会議には、次期市長候補となるような人を10人くらい集めたいと考えています。今までと同じやり方では、何も変わらない。新しい人、新しい考え方が必要なのです。

星沢　ちょうど当社で『シティプロモーション―地域の魅力を創るしごと』という本を発行したところです。決して順風ではない地域が逆転を賭けて成功していく事例を紹介しています。かなり具体的なところまで踏み込んでレポートしていますので、長野市にとっても役に立つ部分が多いのではないでしょうか。

鷲澤　なるほど、これは参考になりそうですね。それにしても、自分たちの魅力を改めて探り、新たに創っていくためには、我々自身が常に柔軟な感性を持ってさらに勉強し続けていないといけないと改めて感じますね。

岩野　私どもが知る鷲澤市長は、個人的な欲がなく、決断が早い、行動力もある、そんな市長です。しかし欲がないから個人的なアピールをしないため、十分に理解されにくい部分もあるのではないかと常々感じています。これからの4年間は、行政の首長として、ぜひとも今まで以上に強いリーダーシップを発揮し、長野市をよりよい方向へ導いていっていただきたいと考えます。NUPRIから輩出した市長の応援団として、我々もできる限り関わっていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

　本日は、どうもありがとうございました。

出席者　鷲澤正一 長野市長
　　星沢哲也 NUPRI副理事長
　　岩野　彰 NUPRI事務局長

2010年1月27日、長野市役所にて開催した座談会をNUPRI事務局で要約しました。
（文中敬称略）